

通信指令室長からのお願い



通信指令室長
奥田 直人



- 自宅から通報をされる時は、通報場所の特定ができる固定電話を使用してください。携帯電話は、住所確認に時間を要してしまうためです。
- 「サイレンを鳴らさずに来てください」と言われることがあります。道路交通法により、消防車両はサイレンを鳴らさなければ緊急走行できないことになっていますのでご理解ください。
- 誤って通報をしたとき、何も言わずに電話を切るかたがおられますが、そのようなときは電話を切らず「間違えました」と伝えてください。通信指令室では緊急の可能性のあるものと考え、確認の連絡を取ることになっています。
- 病院照会などのお問い合わせは、☎62-0119 をお願いします。

光 I P 電話は、通話料が安いなど、たくさんのメリットがありますが、停電時には機能的に使用できません。この場合、緊急の 119 番通報もつながらず、そんなときはあわてず、携帯電話を使用するなど、ほかの通報手段を検討してください。

通信指令室員は、みなさんからの通報を受け、直接現場へ出動し活動することはありません。しかし、今まさに起きている災害に対し、一番初めに接する部署でもあります。

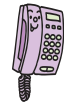
今後も市民のみなさんの安全な暮らしを守るため、さらに努力を重ねてまいりますので、適正な「119番」の利用に、なお一層のご協力をお願いします。

架け橋であり続けるために



24時間365日市の安全を守ります

光 I P 電話



通報の内容から災害の状況をイメージし、消防隊や救急隊がより迅速で的確な活動ができるような情報を聞き取り、そして何より、「言葉と言葉」のやり取りの中で、災害に直面しているみなさんの不安を少しでも取り除き、その被害が最小限のうちに治まることを願ひ、みなさんからの通報に対応しています。

「早く来てくれ」と思われるくらい細かくお聞きすることもあります。時には電話をつないだまま、応急手当をお願いすることもあります。でも安心してください。消防車や救急車はすでにあなたのもとへ向かっています。



ドクターヘリについて

京丹後市民のみなさん、ドクターヘリという救急システムをご存じですか。

このシステムの概要は、消防署が重症の 119 番通報を受信した時や、救急出動現場で医師による早期治療が必要と判断した場合に、救命救急センターなどに常駐している専門の医師と看護師が搭乗したドクターヘリに出動要請し、現場近くの小学校などに着陸して、救急隊と協力し治療を開始するシステムです。



救急救命士 中西 孝文



つまり、生命の危機に直面している人の所へ医師が直接出動し、病院で行う治療を現場で開始するというシステムです。

現在、ここ京丹後市内も運航エリアとなる公立豊岡病院を拠点とするドクターヘリ運航計画（平成二十二年四月運行開始予定）が進んでいます。

参考ですが、すでに二十機を越えるドクターヘリが全国各地で活躍しています。

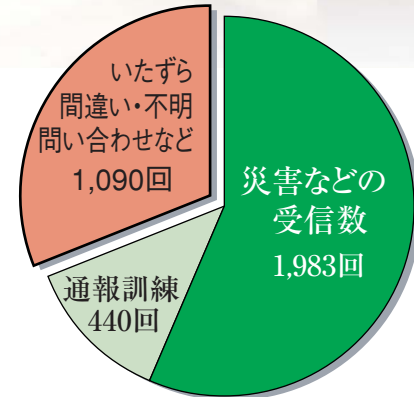
あなたを守る架け橋「119」

119番は、消防と市民のみなさんをつなぎます

「火事・救急・救助は、局番なしの「119番」まで」みなさんも一度は目や耳にしたことのあるフレーズではないでしょうか。今回は、安心・安全を言葉と電波に乗せて発信する「通信指令室」をご紹介します。

119番受信状況

平成二十年中、通信指令室では、119番通報を三千五百十三回受信しました。そのうち、災害などの受信数は千九百八十三回（五六・五％）で、それ以外の受信数は千五百三十回（四三・六％）ありました。それ以外の受信数の中には、間違い・い



119番受信状況（平成20年中）

この施設は、119番通報の受信から出動まで、より速く、より確実な指令が可能であり、特に、地図検索装置と発信地表示装置により、素早く通報場所を特定できることから、初動体制の確立に大きな威力を発揮しています。

通信指令室の紹介
市消防本部では、平成十四年三月から現在の「消防緊急通信指令施設」を運用しており、市内のあらゆる災害に対応しています。

消防の志場

たんごの風 43号

119
火災・救急・救助

代表 62-0119
総務課 総務係 62-8119
管理係 62-8129
予防課 62-5119

住宅用火災警報器の設置期限まであと516日です

通報のポイント（例） 落ち着いて、通信指令室員の質問に答えてください	
何が起きたの？	あわてずに「火事」「救急」の別を
場所はどこ？	〇〇町〇〇 △△△番地の□□さんのお宅が火事です。 目標物は〇〇〇です。
どんな状態？	具体的にはっきりと 《火災の場合》 「台所から出火、火が天井まで届きそう」 《救急・救助の場合》 「車同士の交通事故でケガ人が3人いる」

突然の災害を目の前にすると、その緊迫感からあわててしまいがちの間です。そんなとき、通信指令室員の質問に落ち着いて答えることが、実はもっとも効率の良い通報なのです。そこで、「落ち着いて・正確に」をキーワードに、具体的な通報のポイントをご紹介します。

通報のポイントは

たずら・問い合わせなどがあり、本来緊急専用回線である119番の不適正な利用も目立ちます。

また、携帯電話からは五百九十回（二六・八％）の受信があり、普及台数の増加とともに受信数も増えています。